

福祉 × 農業 × サポート組織

「点と点」から「面と面」のマッチングへの 転換で農福連携を推進



≡(★注目ポイント★)≡

- 1 地域の農・福の関係者と支援機関が施設外就労の推進に向けてサポート組織を設置
- 2 サポート組織の設置で、「点と点」から「面と面」のマッチングへと脱却でき、計画的・効率的な施設外就労の実施体制を実現
- 3 事前の実習・研修で就労支援事業所職員・利用者の農業技術・知識が向上し、農業・福祉両者の施設外就労の不安が軽減し、信頼関係が深まる

特定非営利活動法人

島根県障がい者就労事業振興センター

<http://www.miraiwa.com/yu-make/>

(島根県松江市)

● 基本データ(令和3(2021)年11月現在)

- 所在地 〒690-0011
島根県松江市東津田町1741-3(東部事務所)
〒697-0016
島根県浜田市野原町1826-1(西部事務所)
- TEL 085-67-2671(東部事務所)
0855-22-8677(西部事務所)
- 開設年 平成27(2015)年
- 職員数 8人

島根県益田市※

島根県西部農林水産振興センター
益田事務所

JAしまね西いわみ地区本部



概要

障がい者就労支援事業所を利用する障がい者の工賃向上や能力に応じた作業の多様化、農業者の労働力不足解消や経営改善に向け、島根県障がい者就労事業振興センターは、令和3(2021)年4月に設置された益田市の行政、益田市内の農業関連組織で構成する「益田市施設外就労サポート組織」に参画し、市内の障がい者就労支援事業所と農業者が、計画的・効率的に施設外就労を実施することができる体制の構築に取り組んでいます。

SELV Vision 2030



1 2



5

構成員と役割

本事業に携わる
職員の人数

1人

- ①障がい者事業所と農業者との意向調整
- ②マッチング

障がい者事業所

ひまわりの家、きのこハウス、こころクラブ海陽堂、フルール益田、あゆみの里

益田市施設外 就労サポート組織

益田市農林水産課農業担い手支援センター(全体調整、事務局)、益田市障がい福祉課(障がい福祉に関する助言・指導)、島根県西部農林水産振興センター益田事務所(事業所への技術指導・手順書作成、担い手育成面からの助言・指導)、JAしまね西いわみ地区本部(JA生産部会との調整、生産・販売面からの助言指導)



加工用ブドウの収穫作業

※ 島根県益田市／農林水産課農業担い手支援センター、障がい者福祉課

開始までの経緯

令和元（2019）年8月に「チーム益田農福」を結成し、農福連携に取り組むこととなりました。ワークショップを開催し、施設外就労に関する意見の洗い出しと課題の整理を行った結果、農福連携に高い関心を示す事業者が多かったブドウづくりに取り組むことと、「点（事業所）と点（農業者）」を結んだ取り組みから、点同士で連携する「面」の取り組みができる組織化をすすめることを決めたといえます。

その後は、ブドウづくり技術向上のための研修会を企画して、情報を集め技術を習得しました。実際に施設外就労を行う際の作業日数や料金設定の参考としたそうです。研修では施設外就労のポイントや作業の留意点のノウハウも蓄積できました。

それらの準備段階を経て令和3年に、就労支援の事業所と農業者のマッチング・調整を行う組織体制を構築した「益田市施設外就労サポート組織」が立ち上がりました。

具体的な取り組み

特定非営利活動法人（NPO 法人）島根県障がい者就労事業振興センター（以下、振興センター）は、令和3年に立ち上がった益田市施設外就労サポート組織に準備段階から参画し、事業所や農業者、関係機関・団体が一体となったマッチング体制を整備し、施設外就労を調整しています。これまで、加工用ブドウの収穫やブドウの房の袋がけ、ケールのマルチ剥ぎ作業など、計8件・のべ19事業所のマッチングが実現しました。

利用者や事業所職員の農作業技術の習得と向上をめざし、振興センターは「農福連携障がい者チャレンジ事業」等の研修会を開いたり、作業の練習機会なども提供します。

農福連携障がい者チャレンジ事業	職員・利用者の技術習得と作業性を確認、農業者の障がい者福祉に対する理解増進を図る
支援員技術向上研修会	農福連携に先進的に取り組む事業所より支援員を招いた。令和3年は出雲市の事業所の支援員が、利用者が戸惑わずに作業できる工夫などを説明
事前練習	作業が始まる前、各事業所で利用者がブドウの房の袋がけ作業などを練習し技術向上を図る
作業前研修	作業の数日前または当日、農業者から作業内容と注意点を利用者に説明

マッチング後は連携先である農林水産振興センターの農業普及指導員がマッチングした両者の指導を行ったり、振興センターが作業期間中に現地へ赴き作業をサポートするなど、組織内で連携しながらマッチング先のアフターケアも行うといえます。

事業で発生する経費

振興センターが負担する経費は「農福連携障がい者チャレンジ事業」にかかる費用と、振興センター職員の旅費・交通費、事務費等で、島根県の委託事業の費用を活用します。

工夫していること、心がけていること

事業所の主体性の確保

施設外就労の契約や料金支払い、受領業務などは、事業所と農業者が直接やりとりし、振興センターは、事業所の主体性の確保を心がけています。また、サポート組織の組織化以前より行われていた農作業の施設外就労すべてを組織サポートを通した対応に移行してしまうと、実施条件が異なる（合わない）場合や、それまでに両者が築き上げた関係性を壊してしまう可能性があると考え、相対で継続実施が可能となるよう配慮するといえます。

計画的な作業の実施

計画的に施設外就労を見込むため、振興センターは農業者の作業依頼の早期把握と事業所と農業者の早期マッチングに努めています。



ブドウとケールに絞った作業（ブドウの房の袋がけ）

課題と対応

課題 農業者のニーズと事業所能力の乖離 **対応** 農（作）業の施設外就労を実施する事業所は少なく、また事業所が対応できる範囲もそれぞれ特長があるため、すべての農業者ニーズに応えることは困難であったといいます。そこで、振興センターは作物の種類をブドウとケールに限定しました。農業者側も農福連携に理解を示す方や大型経営体を対象として、確実なマッチングを図りました。

課題 利用者の農作業技術の習得・向上 **対応** 利用者の作業技術向上を図るため、農福連携障がい者チャレンジ事業で作業実習を行っています。

課題 利用者の工賃向上 **対応** 「施設外就労を計画的に実施し、年間作業計画を組み立て、農作業に取り組む」。振興センターは、各事業所が共有するこの一連の流れを相互研鑽とレベルアップにつなげ、さらに工賃向上に結びつけることをめざしています。

課題 新型コロナウイルスの影響 **対応** 作業中の休憩は農業者所有の建物で取る予定でしたが、当時は3密（密閉・密接・密集）回避のため代替の建物を確保したそうです。マスクを着用した農作業は体力を消耗するため、休憩・給水に注意が必要です。



ケールほ場のマルチ剥ぎ

反応・効果

利用者
の反応・効果

「事業所内の仕事より楽しい」「時間が経つのが早い」などの感想が聞かれるそうです。農業者がかける声は励みとなり、利用者が作業に向き合うモチベーションの維持に効果を上げています。

職員
の反応・効果

この事業で、施設外就労の作業量と作業日数が増加したことに加え、事業所職員が農業者と交わす個別交渉や日程調整実務の省力化につながったといいます。「よい仕事を紹介された」「自分たちが育てた農作物を事業所の皆で食べたい」などの声があがり、この事業の組織的取り組みは事業所職員の高評価を得ました。

農業者
の反応・効果

農作業の労働力不足解消につながり、農業者は他の基幹作業を適期に実施することが可能となりました。事業所職員同様、個別交渉や日程調整実務が省力化されました。

★ 展望・課題



振興センターは今後、主に組織体制や手順の見直しと改善、農業者のニーズが増加した場合の対応策、利用者の作業負担の軽減や能力に応じた作業を可能とする道具・作業環境の工夫、そして他事業所の参加を促進するための検討をすすめます。利用者の工賃向上や労働力不足など、他地域の事業所と農業者が抱える問題の解決にもつながるよう、この事業をひとつのモデルとして地域の実情に応じた仕組みづくりを支援したいと考えています。

島根県障がい者就労事業振興センターのSDGsへの取り組み

農福連携に取り組むことは、農・福双方の健全な生産活動と発展に寄与するとともに、食料の安定生産と農村地域の持続的な保全・活性化につながります。

振興センターは、農福連携が障がい者の収入増に道すじをつけ、さらに、自己充足感を満たすことにもつながる取り組みであると考えています。

